

まよ で ひつじ
迷い出た羊

まごい
迷子

おおぜい ひと あつ
大勢の人が集まるところでは、迷子もでてきますね。

まごい
みなさんは迷子になったときどうしますか。 考えた

くうはく か
ことをつぎの空白に書いてください。

みうしな ひつじ
見失った羊のたとえ

つみひと しょくじ
イエスさまが罪人たちと食事をしたりしているの

りっぼうがくしゃ ひはん
を、律法学者たちから批判され、それにたいしてイエ

こた
スさまがたとえで答えています。ここでは、見失った

ひつじ つみびと
羊とは罪人であり、牧者は悔い改める罪人を喜ん

むか い ちち かみ すがた え
で迎え入れる父なる神の姿として絵がかかれています。

まごい
もともとのたとえはどうだったのでしょうか。 九

じゅうきゅうびき ほお
十九匹を放っておいても、迷い出た一匹を探しに

まさしや すがた えが おも
いく牧者の姿を描いていたと思われま

じだい いま じだい おな
イエスさまの時代でも、今の時代でも同じことです

が、ひとびとの考^{かんが}えでは、社会^{しゃかい}の中^{なか}でお荷物^{にもつ}になる人^{ひと}、落伍者^{らくごしゃ}と呼ば^よれている人は切り捨^すててしまえばよいとい^いうことになりま^す。

しかし、イエスさまはそうしたひとびとの考^{かんが}えに對^{たい}して、九十九匹^{きゅうじゅうきゅうびき}を放^ほつておいてでも、一匹^{いっぴき}を選^{えら}ぶことの大^{たい}切^{せつ}さを訴^うてています。

イエスさまの言^{ことば}葉^はは弟子^{でし}たち^らにさ^さえもな^なかなか受^うけ入^いれられ^られ^れませんでした。教^{きょう}会^{かい}の中^{なか}でも、イエスさまの言^{ことば}葉^はは自分^{じぶん}たち^らの都^{つごう}合^{ごう}のい^いいよう^{よう}に解^{かい}釈^{しやく}され^れてきた^きた^たのです。

マタイによる福^{ふく}音^{いん}書^{しょ}では、このた^たと^とえ話^{はなし}は、小^{ちい}さ

な者^{もの}が一人^{ひとり}でも滅^{ほろ}びることを望^{のぞ}まない父^{ちち}なる神^{かみ}の考^{かんが}えを示^{しめ}しています。教^{きょう}会^{かい}の仲^{なか}間^まとな^なった人^{ひと}は誰^{だれ}でも受け入^うれ、自分^{じぶん}たち^らの中^{なか}から落^{らく}伍^ご者^{しゃ}が出^でないよう^{よう}にと教^{おし}えていま^ます。

イエスさまのな^なまの言^{ことば}葉^はに耳^{みみ}を傾^{かたむ}ける努^{どり}力^{りよく}が必^{ひつ}要^{よう}な^なのです。

